

第3章

最近の学校の被災事例と

防災行動計画

I 最近の学校の被災事例

1 最近の被災事例とその後の対応

平成 18 年 7 月 15 日～19 日

岡谷市

集中豪雨

記録的な豪雨になり、湊地区や川岸地区などでは、土石流により大きな被害が発生した。



上の原小学校

体育館



外観



廊下



平成 20 年に完成した砂防施設には、災害伝承パネルが埋め込まれ、災害の事実を後世に伝えている。



PTA や地域の方はもちろん、県内外の学校関係者など多くのボランティアがかけつけ、7 月 26 日から 30 日までの 5 日間に、延べ約 1,700 人で土砂の撤去作業がおこなわれた。

平成十八年七月豪雨による災害
平成十八年七月十五日から十九日にかけての梅雨前線により降り続いた雨は、記録的な豪雨となり、岡谷市をはじめとして甚大な被害をもたらした。
当地においては、七月十七日から十九日にかけて累計四百ミリ（豪雨観測値）の雨が降り続いた。七月十九日早朝、沢上部の斜面にて土石流が発生した。この土石流は、流水を伴って流れ下り、下流の特別養護老人ホーム敷地内に入った車を押し流し、さらには上の原小学校の校舎や体育館に流れ込み、多くの施設を損壊させた。
この被災経験を後世に伝え、今後の防災につなげるにとともに、東水く地域の安全を願い、ここに伝承文を刻むものである。
平成二十年三月 長野県・岡谷市

写真提供：岡谷市教育委員会

長野県建設部砂防課

平成 23 年 3 月 12 日

東部小学校

体育館の天井パネルが多数落下した。

栄村

長野県北部の地震

東日本大震災翌日の午前 3 時 59 分。長野県北部を震源とする震度 6 強の地震が村を襲った。



※東部小学校と北信小学校は平成 23 年 4 月に栄小学校として統合



栄中学校

図書館の本が散乱し、音楽室のピアノの足は床を突き抜いた。



北信小学校



床に落ちた時計。地震発生時刻 3 時 59 分を指して止まっている。昇降口の児童用下駄箱も倒れた。



平成 26 年 11 月 22 日

白馬村

神城断層地震

午後 10 時 8 分ごろ，北安曇郡
白馬村を震源として，マグニチュー
ド 6.7 の地震が発生した。



多数の倒壊家屋が発生したにも関わらず，死者が生じ
なかった事象は『白馬の奇跡』とも呼ばれた。



白馬中学校



白馬北小学校



白馬南小学校



写真資料はすべて

「2014 年神城断層地震震災アーカイブ」より

<https://kamishiro.shinshu-bousai.jp/>

神城断層地震から5年、その後の学校は・・・

中学校段階における防災教育については、災害発生のメカニズム、災害事例からいろいろ学んで、安全な行動をとるということが基本。防災教育には、地震だけでなく、火災、大雨、台風や土砂崩れなどいろいろあるが、実際学校では、防災教育としてこれらをそれぞれ、一つ一つを取り上げてたくさん時間をかけて特別の学習として扱っていくのは難しい。各教科の学習で手一杯。そんな中でも各地で起きている台風やその他の災害について話題にして、各教科とのつながりの中で防災学習につなげていたり、防災訓練の際に、神城断層地震のことを話題にしたり、理科の授業の中で、地震の単元の中で神城断層地震のことに触れていたりしている。総合的な学習の時間で白馬中の1年生は、「白馬の自然」について探求している。その中のあるグループは、神城断層地震のことを扱った。アーカイブには、「その時の地震の様子」や「被災した方へのインタビュー」、「その時学校は、どう対応したか」というインタビューが入っている。白馬中では、被災者の心情を考慮して、今まで神城断層地震のことをあえて慎重に扱ってきた経緯がある。しかし、これで震災から5年が経過するにあたり、アーカイブ活用の重要性を感じている。今後の防災教育をより良いかたちで進めていくことにより、子供たちと共に今後のことについて考えていきたい。

(白馬中学校校長 浅原昭久先生 抜粋)

防災訓練で、子供たちによくこんな話をしている。「テストで100点満点のところ、99点を取ったらどんな気持ちか？あと1点で100点だから惜しかった、残念だったという気持ちを持つ子もいるだろうし、結構とれたなと思う子もいるでしょう。ですが、『防災、避難で命を守る』ということから考えたときに、100人いて1人でも命を失ったらそれは失敗なんです。」

本校には115名の児童がいるが、もし一人でも命を落としたとしたら、学校としてそれは許されないことだと思っている。だから「先生たちは真剣に避難訓練に取り組む。君らも真剣に取り組んでほしい。」と伝える。小学生にとって命を失うということ自分をイメージするのは難しい面もあるが、そういった職員の真剣さというものは、子供たちに伝わっていると思っている。

本校では、5年前から、神城断層地震が起きた11月22日を毎年「防災を考える日」と位置付け、中学、保育園とも連携をして防災の意識を高める取り組みをしている。本年度は、新しい取り組みとして、隣にある保育園と一緒に避難訓練をする。園児は保育士さんに連れられて、小学校まで避難してくる。立地条件として、歩いて5分くらいのところなので実施は難しくはない。大きな地震が発生した時、交通網が麻痺し保護者がすぐに迎えに来られないようなこともあり得る。本校の体育館が避難所として設定されているので、そこまで避難し保護者を待つというケースも想定されるので、そのための訓練にもなる。中学生も時間帯を変えて実際に歩いて避難所を確認する。この訓練に先駆けて、朝、全校で「震災について学ぶ防災集会」を予定している。ドキュメンタリー番組の一部を視聴し、「命を守る方法とはどんなことか」をテーマとし、1年生から6年生が6つの縦割りの班に分かれて、子供たちが自分たちで考える場を設ける予定。揺れがきたとき、避難するとき、避難した後、それぞれの場面で、自分はどんな行動をとったらよいか、また、どんなことが心配なのか、子供たち同士が主体的に話をすることを期待している。その活動を通して「自分たちで自分の命を守る」行動がとれる子供たちに成長して欲しいと思っている。昨年度は、この日に小・中学校合同で引き渡し訓練を行った。それぞれの学校に在籍しているお子さんを持つ保護者は、2つの学校に迎えに行くことになるが、自動車でのような動線をたどって迎えに行けばスムーズにいくのか確認をしていただいた。

防災を考える日以外にも、緊急地震速報受信システムの訓練モードを活用し、ショート（シェイクアウト）訓練を実施している。先生たちにも予告をしないで行うこともある。「あと30秒後に地震が起こります。」という放送が流れたら「姿勢を低くする、頭を守る、動かない」この3つのポイントを守って机の下に瞬時に潜り込むことが習慣づいている。また、教室以外の場所にいたときには、ガラスのそばから離れたり、落下物があるようなところを避けたりする行動もとれるようになっている。

また、5年生においては、総合的な学習の時間で「自分の命は自分で守ろう」をテーマとして学習をする。神城断層地震のことを詳しく知ったり、地域の防災拠点を調べたりすることを通して、特にこの地域の特徴である「大雪」の登下校時を想定し、「万が一地震が起きたら自分はどうしたらよいか。」子供たちと考えていきたい。家庭、村の総務課、バス会社から情報をいただきながら学習を進め、まとめたことを他の学年や学校外の方々にも発表する機会をつくり共有したいと考えている。

(小谷小学校校長 松尾 修先生 抜粋)

令和 元年 10 月 12～13 日

長野市他

令和元年東日本台風(台風第 19 号)災害

台風第 19 号の影響で長野市穂保の千曲川では、13 日に堤防が決壊し千曲川水系を中心に大きな被害を与えた。



写真提供：千曲川河川事務所

長野市立長沼小学校

外 観



長野市立豊野中学校

職員室



写真提供：長野市教育委員会

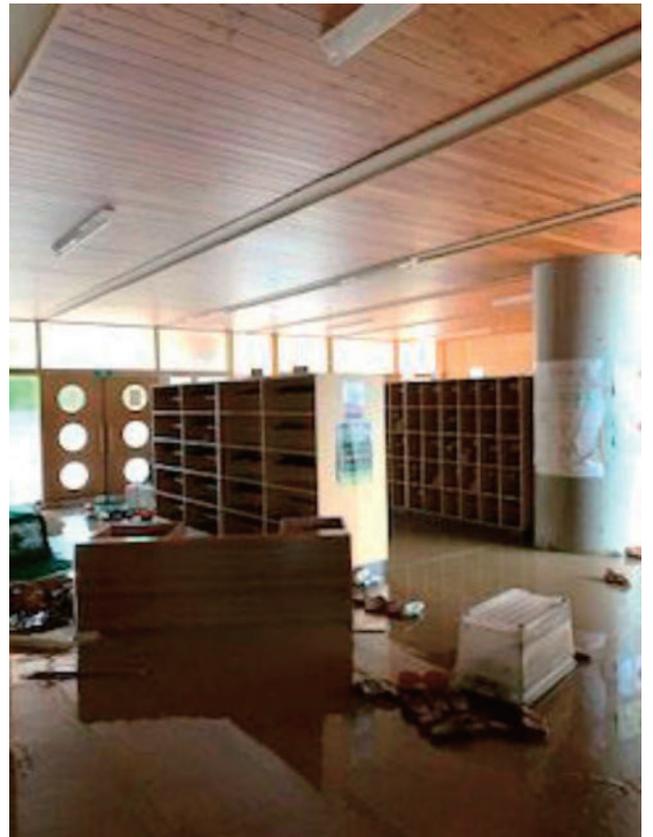


ここまで水に浸かりました。

次ページからは、豊野中学校ホームページに掲載されているものを紹介します。



↑ 昇降口前の校名札
「野」と「中」の位置まで浸水しました。



↑ 昇降口
生徒の上履きも水に浸かって散乱していました。



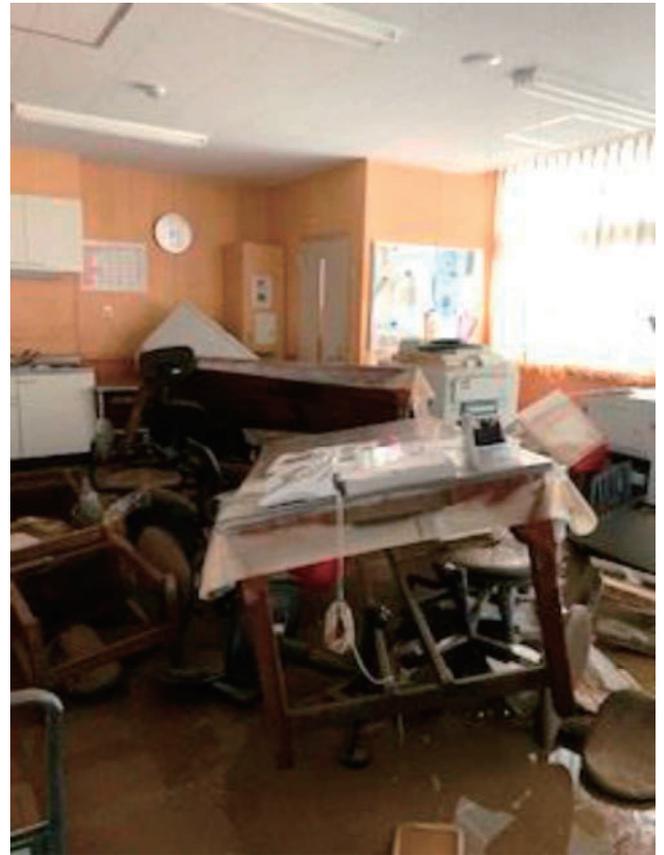
↑ 職員室 足の踏み場がない状態でした。
パソコン類も全滅でした。



↑ 体育館入り口
卓球台が流れてきて厚いガラスも割れてしまいました。



↑ 技術室 大きな木製機はかなりの重量ですが、一度浮いて、ひっくり返っていました。



→ 印刷室 同じく木製機がひっくり返っています。印刷機器も全部使えなくなってしまいました。



↑ 生徒会黒板（左）と令和元年度生徒会目標（右）

どちらの写真も黒板の真ん中あたりに「線」が残っています。ここまで浸水したという「線」です。偶然にも、令和元年度の生徒会目標は「RESTART」というものでした。「復興へ向けて再び始めよう」と、新たな意味が加わった生徒会目標を合言葉に、全校で復興を目指してきました。



↑ 運び出された災害ゴミ

体育館まわりいっぱいゴミの山ができました。生徒が登校するためには、一日も早くゴミを撤去させなければ…と悩みました。



↑ ボランティアの皆さん

長野上水内の他校の先生方、高校生を中心に、遠くは前年に豪雨で被災した岡山県の先生方も来てくださり、片付けを手伝っていただきました。500名以上の方に助けられました。



← 地元企業、↓ 自衛隊の皆さん

ボランティアで校舎洗浄作業をしてくださったのはミヤマ株式会社の皆さんです。被災した市内すべての学校の復旧に携わっていただきました。校庭を整備してくださったのは陸上自衛隊の皆さんでした。

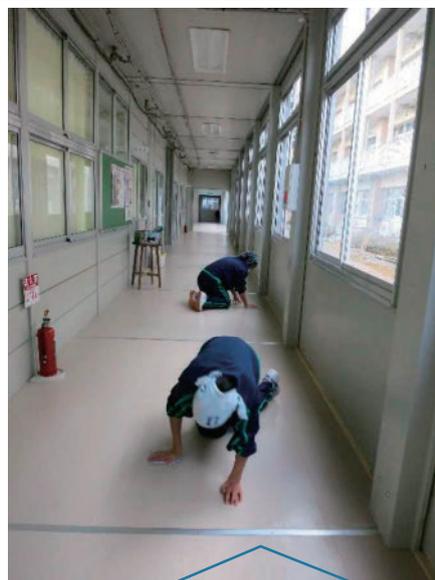
大型重機での力強い作業は、素人の私たちには到底できないことばかりでした。何日もかけて、校舎の床下まで流れ込んだ土砂のかき出し、洗浄、校庭の整備等をしていただきました。





南校舎、体育館前に建設された仮校舎です。被災当日、手前の校庭は約2m浸水し、校舎に近づくことはできませんでした。

3学期2日目、仮設校舎の校長室から見た虹。(写真右)「がんばろう」と勇気が出てきました。



仮設校舎の廊下は、今までよりも狭いですが、右側通行と譲り合いで給食を運んだり移動したりしています。協力する姿がさらに見られるようになりました。

本校の伝統の一つである「無言ひざつき清掃」で、仮設校舎でも本校舎でも床を磨いています。被災当初は大変なことも多くありましたが、授業だけでなく給食や清掃等の場面でも、元の学校生活を取り戻しつつあります。今回の被災体験を通して、恵まれた環境にあった自分たちを改めて感じています。そんな思いが清掃をする姿にも表れているようです。(長野県の中学校の多くは、手拭いをかぶって清掃を行っています)

全国の学校の皆様よりたくさんのご支援をいただいています。生徒集会で発表したり廊下等に掲示したりして紹介をさせていただいています。



令和2年5月 26 日

須坂市

落雷

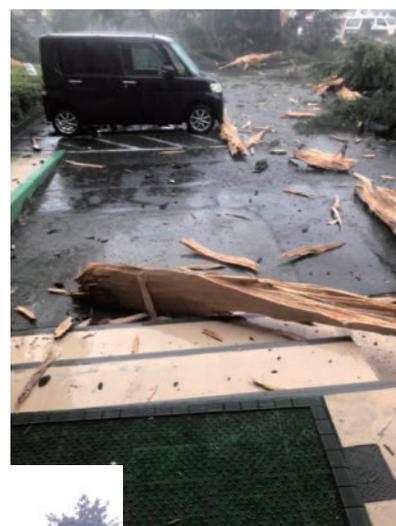
午後4時前に落雷があり、創立時から学校のシンボルだった大木のヒマラヤスギが倒れた。木は雷の直撃を受けたとみられ、衝撃で幹や枝は砕け散った。幸いけが人は、いなかった。



須坂東高等学校



昇降口前



校舎の窓ガラスが数枚割れ
非常ベルや火災報知器が鳴り
っぱなしだった。

写真提供：須坂東高等学校